

令和8年度第1回日進市総合戦略推進委員会 議事要旨

日 時	令和8年8月4日（火） 午後1時30分から午後3時15分まで
場 所	日進市役所本庁舎2階 第4会議室
出 席 者	鵜飼宏成、亀倉正彦、高木伸治、志水佳三、柴田幸美智、鵜飼明男、山口瑠美子、羽根由美（敬称略）
欠 席 者	大園一磨、三隅晋吾（敬称略）
事 務 局	杉田武史（政策調整監）、川田敏章（企画政策課長）、味岡正樹（同課課長補佐）、大西日奈子（同課主任）
説明の為に出席した者	山田和典（産業観光課長）、小池健太郎（同課課長補佐）、西澤寿一（同課主任主査）
傍聴の可否	可
傍聴の有無	有（4名）※Zoomによる傍聴
次 第	1 開会 2 委員委嘱書交付 3 政策調整監挨拶 4 自己紹介 5 委員長選任、委員長職務代理指名 6 報告事項 （1）地域再生計画（日進市まち・ひと・しごと創生推進交付金計画）について （2）デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）について 7 閉会
配 付 資 料	資料1 日進市地域再生計画について 資料2 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）について 追加資料1 日進市総合戦略推進委員会について 追加資料2 第2期日進市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略

	1 開会
	2 委員委嘱書交付
	3 政策調整監挨拶
	4 自己紹介
	5 委員長選任、委員長職務代理指名
	（傍聴者入室）
	6 報告事項
委 員 長	報告事項、地域再生計画（日進市まち・ひと・しごと創生推進交付金計画）について、説明をお願いします。
事 務 局	（資料1、追加資料1及び追加資料2に基づき説明）

委員長	ただいまの説明について、ご質問やご意見はございますでしょうか。
委員	今回の資料の最後にごさいます、次世代交流センター拠点の資料に書かれている KPI のうち、地域経済循環率について、もう少し説明していただけますでしょうか。
委員長	それだけではなく、実装事業数など、それ以外の言葉の意味についても、何を意図されているのか少し解説を加えていただけると助かります。
事務局	<p>まず 1 つ目の地域経済循環率は、地域で生み出された付加価値が、どれだけ地域内に還元され、また収入として地域に戻ってくるかという動きを見る数値です。本市の場合、経済産業省の地域経済分析システムなどの統計データを見ると、近隣市町と比べ、所得や消費が市外に流出する割合が比較的大きいという状況です。そのため、より地域内で循環できることを目指せないかということで、目的の 1 つとしております。</p> <p>2 つ目の実装事業数は、次世代交流センター、もしくは日進市地域イノベーション Lab で実装していく事業を、目標数値として設定しているものです。</p> <p>3 つ目の地域拠点利用者数は、次世代交流センターをご利用いただいた人数です。</p> <p>4 つ目は、日進市地域イノベーション Lab の登録件数です。日進市地域イノベーション Lab では、共創パートナー及び共創サポーターとして、Lab の取組にご賛同いただき、ご協力いただける企業や大学に登録いただいております。Lab については、ご登録をいただいた事業者には、様々なシーズやニーズを情報共有していく場になればと考えております。なお、こちらは、5 年間の計画の合計値となっておりますので、ご留意いただければと思います。</p> <p>また、この計画では令和 10 年度に次世代交流センターが竣工する予定ですので、令和 11 年度以降の数値目標となっております。</p>
委員	Lab の登録 50 件というのは、令和 10、11 年度からの新規登録ということでしょうか。それとも累計ですか。
事務局	現在の登録件数も含めた累計になっております。現在、10 件ほどご登録をいただいております。
委員	登録というのは、何かプランを登録されているのか、あるいは企業として協力の意思があるという登録なのか、どちらでしょうか。
事務局	企業や大学としてご登録いただいているものです。
委員	次世代交流センターのイメージが湧いておりませんが、どのように活用していくのか教えていただきたいです。
事務局	愛知県では、鶴舞に「STATION Ai」ができております。こちらは、スタートアップ企業や起業支援に重きを置いている施設であり、企業同士が共創する拠点という位置づけがされていると思います。次世代交流センターは、地域課題をどのように解決していくかを 1 つのメインキーワードに置いています。行政だけではなく、企業や大学等、様々な方に関わっていただき、新たな付加

	価値や地域経済の活性化につながる事業が生み出される拠点として考えております。
委員長	委員の質問の意図は、次世代交流センターをどのように運営していくのか、人の役割や、どういう種類の人が関わってくるのかということだと思います。ここで様々な課題が出されたり、課題を確認されたりすると思いますが、確認だけで終わっては、その先の実装事業につながりません。実装事業へ展開していくために、どういう取組を計画されているのかというところまで説明されないと、理解が難しいのではないかと思います。
事務局	<p>この場をどのように運営していくかという点は、模索している段階にあります。そのなかで、愛知学院大学内の地域イノベーション Lab では、まずは企画政策課の職員を中心に、本市が企業や大学をつないでいく形を取っております。</p> <p>また、同時並行で、他市町の事例も調査しております。本市に合った適切な運営方法を、次世代交流センターの開所までに検討していくことを想定しております。まずは市が中心となって運営していきますが、先進市町などの事例を見ると、コーディネーターを置き、関係者をつなぐ役割を担っているケースもありますので、そちらも視野に入れながら今後検討していきたいと考えております。</p>
委員長	<p>例えば名古屋市では「Hatch Technology NAGOYA」などの取組があります。これは、地域で生活している人たちの課題や、名古屋市が抱える行政課題に対して、その解決方法を公募事業という形で全国から企業を集め、解決に向けた実証実験を1年間行うものです。それを踏まえて、方向性が見えてきたり、追加の事業を行う方向に発展したりするものだと思います。</p> <p>もう1つ、「NAGOYA BOOST」では、地元企業や大学生の人材育成も含め、リアルな企業課題の解決や、やりたいことを形にしてプロトタイプまで提案する方法をとっています。他方で、知立市などを見ると、行政側が課題を出すのではなく、公募型で市民や企業から課題を募り、それに対して補助事業として展開していく形もあります。</p> <p>既存の取組が走っている中で、次世代交流センターの仕掛けのメカニズムは、どういう方向を向くのでしょうか。今はまだプランニングの最中だと思いますが、何かアイデアやヒントをいただければ、もう少し理解が進むのではないかと思います。</p>
事務局	冒頭、地域課題を一つの大きなテーマとしていると申し上げました。その地域課題には、行政が抱える行政課題も含まれると考えております。ただ、行政側だけが課題を出すのではなく、地域の皆様、企業、大学、市民の皆様がお持ちの課題も投じていただき、それぞれの知見を生かし、事業を実装していく形で進めていきたいと思っております。
委員	大学の中に設置されることを考えると、大学の研究資源等の活用と同時に、

	<p>大学生の人材育成も入ると考えております。日進市との産学連携などに関わらせていただく中で感じているのは、市役所の方で考えている課題と、大学生の中で腑に落ちるリアルな地域課題とは、必ずしも一致しないということです。市役所目線の課題を押し付けるのではなく、大学の中に Lab ができることによって、市役所が考えている課題を大学生と共有し、コミュニケーションのきっかけになっていくと、連携の拠点としてもより機能していくと感じました。</p>
事務局	<p>先ほどの説明に補足します。現状、日進市地域イノベーション Lab は 7 月に発足し、最初の事業として、内閣府の地方分権改革推進室の方に来ていただき、行政職員を対象に広域で研修を行いました。行政は、市民の要望を受けて政策を進めたいものの、法律や制度上の規制によって進められないことがあります。こうした悩みを行政側は常に持っています。地方分権改革推進室は、自治体の立場に立って各省庁と交渉する役割を担っていますので、国と自治体と一緒に考え、規制を少しでも緩和し、住民の要望に沿う政策を進めていきたいと思いますという内容でした。大学、行政、企業など、それぞれ置かれた環境によって、課題は変わってくると思いますが、できる限り Lab で集約し、解決に繋げていきたいと考えています。</p> <p>また、これまでも大学との連携は多くありましたが、企業との連携が少ないために、行政と大学生で作り上げた意見は斬新なものもある一方、それが果たして実現可能なのかというところまでは、なかなか踏み込んでいけませんでした。そこへ、企業の方からアイデアを投げかけていただき、「実際に業務としてできるのか」「採算は取れるのか」という、これまで欠けていた部分にアプローチをしていきます。その上で、実現可能なプランをある程度立て、資金をどのように入れていくのかを考えます。</p> <p>もう 1 つは、日進の足元に目を向けてみましょう、ということです。スタートアップ企業は多くのところで支援していますが、「今、日進市で創業している企業が実際に何をやっているのか」「日進市民や学生が知っているのか」「そこに光を当てるためにはどうしたらよいか」など、素朴な疑問から始められる場所にしていきたいと考えています。身近な疑問から地域課題の解決に繋げていく場所にしていきたいと考えております。</p>
委員長	<p>他の地域にもヒントはあるかと思しますので、調査をしていただくと、日進市らしい動き方が見えてくるのではないかと想像しております。</p>
委員	<p>いかに一緒に取り組む人を増やすかが大切だと思います。日進市で既に取り組んでいる方はもちろんのこと、市外の方に関わっていただくことも大事だと思います。拠点を作ったということだけではなく、「日進市でやると何か良いことがある」「自分たちのお金を使ってもいい」と思ってもらえるように、様々な方の意見を聞きながら、運営の仕方まで考えていただけるとよいと思います。</p>

事 務 局	<p>現在、本事業は事業費がございません。これから、様々な課題に対して、各企業や賛同される方々に資金提供をしていただくこととなります。なるべく市の税金を使うのではなく、魅力を発信することで事業を成功させていきたいと考えております。まだ走り出したばかりでお伝えできることは少ないのですが、ぜひ皆さんからもアイデアをいただきながら進めていければと思います。</p>
委 員 長	<p>2つ目の報告事項、デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生拠点整備タイプ)について、説明をお願いします。</p>
説 明 者	<p>(資料2に基づき、事務局から説明)</p>
委 員 長	<p>ただいまの説明について、ご質問やご意見はございますでしょうか。</p>
委 員	<p>子育て支援施設の利用者数が当初の予定よりもはるかに多くなっており、非常に良いことだと思います。</p> <p>出荷額や売上額の目標値について、実績を踏まえた定期的な見直しは行われるのでしょうか。</p>
説 明 者	<p>国に事前にこの数値で提出しておりますので、期間中は見直しがないと考えております。見直しができるようであれば、次年度にご報告させていただきます。</p>
委 員	<p>目標に対する実績で説明するのであれば、実際の運用の中では目標値を見直していくことも必要ではないかと思います。</p>
委 員 長	<p>国への提出資料ではなく、運用上の資料としては作成されているものもあるかと思いますので、そういった資料も併せて提出していただいた方が、議論がしやすいのではないかと思います。</p>
委 員	<p>指定管理者と定期的に意見交換をして問題点などを共有し、改善を図ったとのことですが、具体的な問題点についてお伺いしたいです。</p> <p>また、改善を図った項目は列挙してありますが、それが課題なのか、問題点に対する改善策なのか、お話しいただければと思います。</p>
説 明 者	<p>まず問題点について、施設のハード面では、開駅当初、多くの利用者から、駐車場が非常に分かりにくいというご意見をいただきました。市が設計した施設ですので、指定管理者から詳細に説明ができない部分もあり、利用者にご理解いただけないこともありました。そちらについては、指定管理者から情報をいただきながら、案内看板の設置などに市も協力し、施設利用者が混乱なく利用できるよう、案内表示等について指定管理者と協議を進めてまいりました。</p> <p>ソフト面については、開駅当初は地域とのつながりが薄いために、市民の参加を求めるイベントの開催が難しくなっておりました。市が仲介し、様々な事業者や団体とつなぐことで改善を図り、現在では月に何回か、市民が開催するマルシェなども定期的に行われるようになっております。</p>
委 員	<p>子育て支援施設の利用者についてですが、計画よりも多くの方に使ってい</p>

	<p>ただいていることは、素晴らしいことだと感じました。</p> <p>ただ、プレイルームに来ている親子について、働いている立場から見ると、平日は専業主婦（主夫）の方の利用が多いと思います。例えば、この子育て支援施設を、働いている女性や家庭にも利用していただけるような計画はあるのでしょうか。「日進市の道の駅の子育て支援施設はこんな施設で、働く人にもこんなふうに使える」ということが発信できたらよいと、個人的に思いましたが、どのようにお考えでしょうか。</p>
説 明 者	<p>現在のプレイルームは、親子で遊ぶことをコンセプトとしております。平日も多くの方に利用していただいております、お子様を預かるような利用形態をすぐに展開することは難しい状況です。</p> <p>ただ、今後、プレイルームも平日の時間帯には空きが出てくると考えられます。例えば、保育園や幼稚園の遠足での利用など、見守る方が一緒に入って利用する形であれば検討できるのではないかと、指定管理者と相談しているところです。ただし、プレイルーム内の運用や安全上の管理などの課題もありますので、まだ具体的に話を進めている段階ではないというのが現状です。</p>
委 員	<p>指定管理者も市も一生懸命知恵を絞り、売上アップに取り組んでおられると思いますが、売上は目標の7割程度に留まっています。例えば、県内外の観光事業者や観光バス会社にPRし、「この名物があるから寄ってください」と発信するのが一番良いと思います。まずは「トイレ休憩に寄ってください」というところから始める方法もあります。</p> <p>我々も研修などで観光バスを利用すると、ほかのサービスエリアや道の駅に立ち寄らせていただくことがあります。地元ではない場所に出た開放感から、財布のひもが緩むこともありますので、観光事業者やバス会社へのPRも1つの方法ではないかと思ひます。</p>
委 員	<p>売上の向上について、まだ来場されていない世代の方に来ていただければ、売上増加に繋がるのではないかと思います。来場者の分析はされていますでしょうか。</p>
説 明 者	<p>マチテラス日進の指定管理者は、日進市以外にも県外の道の駅の指定管理を担っており、ノウハウや実績があります。他の道の駅と比較すると、若い世代の来訪は非常に多く、年配の方の来訪はそれほど変わらないとのこと。ただ、他の施設と比べると平日の売上は苦戦しており、財布のひもが固いという所感を持っているとの報告を受けております。</p> <p>また、若い世代が多いことは、プレイルームの利用実績にも表れています。ただ、若い世代は、道の駅での消費に繋がっていないという現状も、指定管理者は把握しております。どのように道の駅での消費に繋げるかについて、今後検討していく必要があると認識しております。</p>
委 員	<p>平日であれば、ご高齢の方向けのイベントなども良いのではないかと思います。</p>

説 明 者	<p>売上について、補足説明をさせていただきます。先ほど、売上が目標に対して7割程度というご意見をいただきましたが、目標値は12か月で計算しており、実績値は8か月で計算しております。実績値を1.5倍した数字で比較した場合は、目標値を達成する数値です。</p> <p>先ほどの説明では、4月、5月、6月の数値を足した場合も未達であると申し上げました。ただ、現時点では、7月分と、開駅日である8月8日までの数字が出ておりませんので、その数値を足し込んだときに目標値へ達するかどうかは分かりませんが、目標に対して極端に低いということではございません。</p> <p>また、市民の方の消費に繋げるための取組についてですが、ここ数か月の間に、夕方のタイムセールや、地場産物をより多く扱う取組などを始めています。こうした取組を広く市民の皆様に周知することが必要ではないかと考えております。</p>
委 員	<p>道の駅の強みは、子育て世帯が多く利用していることだと思いますので、その方々をターゲットにした商品開発をしていくのも1つだと思います。日進市の強みは、若い人が多いことです。指定管理者が全国と同じようなことをしては、売上の増加には繋がらないと思います。多くの子育て世帯に来ていただいているので、その方々の要望を把握し、「プレイルームに来たついでに購入したい」と思う商品が増えると良いのではないかと思います。</p>
委 員	<p>売上を本当に伸ばそうと思うのであれば、タイムセールではなく、普段、いかに定価で買っていただくかが大切だと思います。安いものは誰でも買ってくださいますが、魅力のあるものを打ち出していかなければならないと思います。ウェブサイトやSNSも見させていただきましたが、SNSは1万人のフォロワーがいる一方、1年間で今のところ投稿は243件です。その中でも、「何かがやってきた」「何かをやった」という結果だけでなく、その間の過程をどう伝えていくのかも、すごく大事です。インフルエンサーを活用すると、フォロワーが増え、来場者の増加にもつながることがありますので、そういったことも指定管理者にお話しされてはどうかと思いました。</p>
委 員 長	<p>子育て支援施設の利用者数が目標のおよそ3倍ということですが、駐車場等の問題で、店舗へのしわ寄せなどが生じていないのかどうか、確認したいです。</p>
説 明 者	<p>駐車場については、市が道の駅の北側に臨時駐車場を設けており、そちらで対応できておりますので、駐車場があふれる状況は現時点では起きておりません。</p>
委 員	<p>地域における農林水産出荷額が当初の予定よりだいぶ低くなっています。この約8,500万円は、12か月分ですか。</p>
説 明 者	<p>農協からいただいている数値は12か月分ですが、そこに道の駅の農産物の売上分を足しておりますので、その部分は8か月分です。</p>

委 員 長	令和 7 年度分の増加分について、目標値と実績値にこれだけ差が出ている理由について、説明をお願いしますか。
説 明 者	<p>事業開始前の 185,643,000 円は、道の駅が開駅する前の農協の売上額です。これに対して、2024 年度の目標値は、農協の売上に大きな変動はないだろうと推測し、増加分を 0 円と見込んでおりました。しかし、実際には約 5,900 万円売上が増えており、この時点で日進市内の農林水産物の出荷額は、約 2 億 4,500 万円となっております。</p> <p>さらに、道の駅が開駅した後は、農協と道の駅を合わせて 85,528,000 円増えましたので、合計は、185,643,000 円、59,658,000 円、85,528,000 円を足した数値となります。</p> <p>当初の予定では、185,643,000 円に 212,000,000 円を加えた、3 億 9,000 万円余りとなる予定でしたが、実績は 3 億 3,000 万円程となっております。85,528,000 円という数値は、農協分は 1 年間で計上しておりますが、道の駅は 8 か月分ですので、実際にはもう少し多い数字になると思います。おおむね、目標に対して計算上は 9 割程度を達成している状況です。</p>
委 員 長	「地域における農林水産出荷額」は、物販などの小売金額であり、その部分だけを切り出しているという理解でよろしいですか。
説 明 者	はい。開駅前は日進市内での農林水産出荷額が約 1 億 8,500 万円でしたが、2025 年度時点では、現時点の 8 か月分で約 3 億 3,000 万円です。これを 12 か月で計算し直すと、3 億 6,000 万円から 3 億 7,000 万円程度になり、ほぼ倍増しているのが実態だと思います。農林水産物の出荷額は、道の駅ができたことによってかなり伸びているのではないかと考えております。
委 員	<p>少し違う視点として、関係人口を強化していく必要があるのではないかと感じております。道の駅が日進市にあることの意味は、市外から訪れる方による経済効果にもあります。まず交流人口からスタートし、それを関係人口につなげていく仕掛けが必要で、それにより次の経済効果も期待できるのではないかと考えています。</p> <p>今回の KPI は既に設定されており、変更もできないということです。例えば売上を増やすにはどうしたらよいかと考えたときに、関係人口を増やすという視点のサブ KPI が必要だと思います。そうしたものがこの場に提示されると、より一層議論がしやすいのではないかと考えておりました。先程の Lab に課題を集約するプロセスの中で、道の駅とのつながりも見えてくるのではないかと考えます。</p> <p>また、先ほどの農業との関わりについて、もう一点指摘したいと思います。現在は出荷額という指標になっておりますが、例えば日進市の農業関連の事業やイベントという形で広げていくと、より広い視点で理解し、考えていくことができるのではないかと思います。</p>
委 員 長	関係人口がどの程度いるかについては、公的な調査が行われており、人口の

	<p>およそ 2 割が関係人口として意識しているという結果があります。また、関係人口が関わり続けるためには、ソフト事業やコーディネート、伴走する役割が非常に大切だという研究成果もあります。日進市で関係人口の視点から検討されるのであれば、Lab との連携事業として展開されることが期待できるのではないかと思います。</p>
委 員 長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。事務局におかれましては、この議論を参考にいただき、より良い推進に向けて展開していただければと存じます。それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
	<p>7 閉会</p>